

①所属名：宮城県北部保健福祉事務所（みやぎけんほくぶほけんふくしじむしょ）

②協会会員番号：3661

③氏名：川村 謙吉（かわむら けんきち）

④所属士会：宮城県作業療法士会

⑤タイトル：復興支援におけるリハ職のボランティア活動について考える

⑥本文：

リハ職の多くは、長年培ってきた臨床技術で、震災で困っている方の役に立ちたいと願ってボランティア活動に参加します。個別支援を生業としているリハ職として当然のことであり、崇高で純粋な気持ちであることに疑いはありません。機能向上のための筋力、バランス、歩行訓練、筋緊張の調整、呼吸リハ・・・当事者支援には当然役に立つ手技です。しかし、このような個別支援をボランティア活動で実施しても、思ったような成果は得られません。また、職能団体のボランティア活動も、実績づくりのための支援、調査に見えてしまう場合も少なくありません。（正義感という名の自己満足？）決してボランティア活動が復興支援の役に立たないわけではなく、リハ職による個人支援を否定するわけでもありません。重要なことは、「地域主体の支援体制づくり」「継続性」「公平性」を背景に、職能団体がどのような戦略を持ってボランティア活動に携わるかということであり、リハ職としては生活支援スキルを持ったうえで介入すべきということです。ボランティアとして考えてほしい点をあげてみます。

○保険者であり住民支援の主体である市町村と協働する

継続、公平性が前提で支援できるのは行政機関（市町村）です。期間限定の支援で、限定された人、地域を支援するのでは、どんな内容であっても本当の意味での地域支援にはなりません。例え、理解が得られにくくとも、市町村協働という基本スタンスから外れてはいけません。いかにうまく使ってもらうか、意見を取り入れてもらうかが腕の見せ所でしょう。

○地元住民による支援体制づくり

ボランティア活動はあくまでも一時的な支援です。どんなに素晴らしい活動でも、ある日突然活動を打ち切ったり、地元住民の就労の可能性を無視した活動は避けなくてはなりません。また、地元住民による支援体制に結びつけるという強い意志が必要です。ボランティア活動による無料支援が地元企業の有料支援の芽を摘むことも避けなくてはなりません。

○コーディネーターにつなぐ

住民支援の最前線にいる市町村の保健福祉担当保健師、ケアマネジャーなどのコーディネーターにうまくつなぐことが重要です。つなぐということは、「押しつけ」や「強制」ではなく、分かりやすく「提供・提案」することである。支援者を支援するという強い意志を持つことが重要です。

第 23 回東北作業療法学会リレーメッセージ（平成 23 年 8 月 22 日）

あくまでも個人的な見解ですが、震災時のボランティア活動で重要なことは、リハ職個人には生活支援スキル（福祉用具、住宅改修、ADL 支援等）を持つことであり、職能団体は、「地域貢献のための地域支援戦略」を持つことと考えます。その前提として、地域資源の把握、関係法令の理解（介護保険など）が重要です。決して個人支援だけに走らず地域支援に目を向けてほしいです。「平時から地域支援を意識しないと緊急時に地域支援がうまくいくわけがない」というのが今回の震災支援からみえてくる教訓です。